

苫小牧市ヒグマゾーニング計画

令和 7 年 12 月

苫小牧市環境衛生部環境生活課

1. はじめに

(1) この計画の趣旨

「ゾーニング管理」とは、人と野生動物をすみ分ける手法のひとつです。北海道が令和6年12月に改定した「北海道ヒグマ管理計画（第2期）」では、ヒグマのゾーニング管理を推進することが位置づけられました。これに伴い、苫小牧市では地域の各関係者から意見を聞き取り、ヒグマとのすみわけに必要な情報を収集しました。この情報を基にゾーン設定を行い、各関係者が共通の理解をもってヒグマ対策を行うため計画を策定しました。

(2) 位置づけ

この計画は、ヒグマ対策を効果的に実施していくために対応の目安などをあらかじめ定めたものです。ヒグマへの対応、特に出沒に伴う捕獲の判断などはその事例に応じた情報に基づき、その安全性等を検討することが必要になるため、各関係者がこの計画を踏まえた共通認識の下、スムーズに連携を取り、検討を行います。

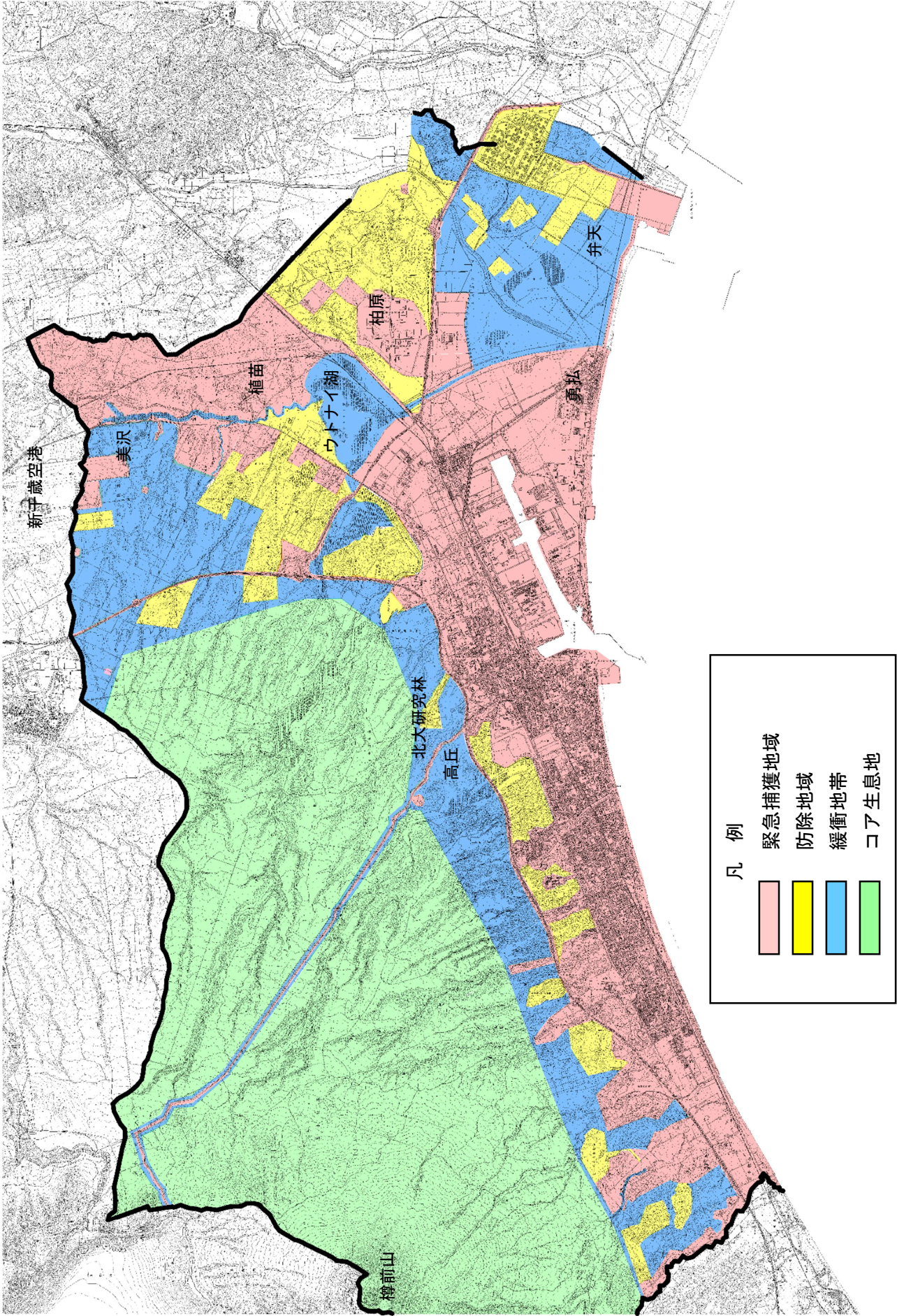
2. 各ゾーンの定義

ゾーン	コア生息地	緩衝地帯	防除地域	緊急捕獲地域
ゾーン概要	健全な個体群の維持（繁殖や生息）を担保するうえで重要な奥山等の地域	コア生息地と防除地域・緊急捕獲地域との間の地域	農業、水産業、工業地帯など人間生活が盛んな地域	市街地、集落内の住居集合地域等の人間の居住地
ヒグマの生息	ヒグマの生息域	ヒグマの生息域	ヒグマの定着は許容しない	ヒグマの侵入は許容しない
人間活動	ヒグマの存在を前提とした限定的な利用（登山など）	ヒグマの存在を前提とした利用	常時ではないが、日常的な利用	日常的かつ高密度な利用

3. 各ゾーンの対応方針

	コア生息地	緩衝地帯	防除地域	緊急捕獲地域
ヒグマへの対応方針	安定した生息に配慮	問題を未然に防ぐ	寄せない・被害を防除	入らせない・入ったらすぐに対応
ヒグマへの取組の方針	・生息地の保全 ・問題個体以外の捕獲は行わない ※春季管理捕獲を除く	・捕獲による個体数の管理	・誘引物の適切な管理 ・被害防止のための捕獲 ・緊急捕獲地域への侵入抑制 ・追い払い対策	・市街地への侵入防止 ・緊急時の対応体制の整備 ・緊急銃猟等による捕獲
	(共通) 出沒情報の収集・発信 普及啓発・調査研究の促進			

4. ゾーニングマップ



5. ゾーンごとの主な取組及び実施体制

主な取組	コア生息地	緩衝地帯	防除地域	緊急捕獲地域
被害防止のための捕獲	—	—	○	○
ゾーニング管理としての捕獲 (被害防止のための個体数管理捕獲)	—	○	○	—
春期管理捕獲	○	○	○	
目撃情報の収集及び注意喚起の発信	○	○	○	○
爆竹や轟音玉による追い払い対策	—	○	○	—
農業被害防止のための電気柵設置	—	—	○	—
作物残渣と廃棄物（生ごみ等）の適正処理	—	—	○	○
林縁部・河川敷の草刈り	—	○	○	○
ICT を活用した効率的な生態調査	○	○	—	—
市街地出没の対応訓練	—	—	—	○
国有林・道有林との連携協力	○	○	—	—
緊急銃猟等による捕獲				○

6. 取組を重点的に推進するエリア

No	地域	概要
重点 1	植苗・美沢地区	ヒグマのコリドーとなっている場所が数多くあることから毎年出没が相次ぎ、住宅地付近への出没も発生しているため、一部を防除地域に指定し、春期管理捕獲等を行うなどして個体数管理を行う。
重点 2	樽前地区	樽前山麓はヒグマの生息地であり錦岡地区の口無沼周辺から高丘地区につながる国道に出没が多い。
重点 3	高丘・丸山地区	国道 276 号は山間部を切り開いた場所であることから通行者からの目撃が多く、千歳方面や植苗・美沢地区に繋がるコリドーと思われる。人が集まる高丘第二霊園は注意が必要。
重点 4	柏原・弁天地区	勇払の弁天沼はヒグマが目指す場所として古くから言われており、目撃情報もある。柏原地区は工業専用地域であるが目撃も多く注意が必要。
重点 5	明野川・幌内川	明野川は弁天沼に、幌内川は北大研究林に繋がる川であり、古くはコリドーとして知られるところ。これらの緊急捕獲地域を流れる川は、市街地への侵入を誘発させる原因となることから、平時から草刈り等を行い、見通しをよくする必要がある。